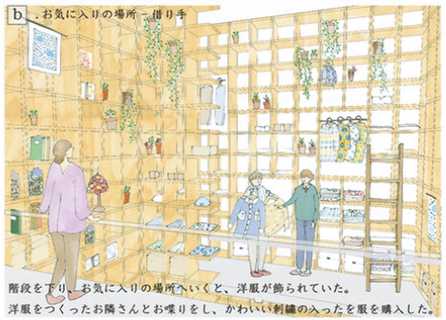
わたしの小さな棚は、マチの大きなアートとなる。

a . 建築家さんのお家

今日はOFF。
少しやり残した作業を終え、お気に入りの場所へいこうとおもう。

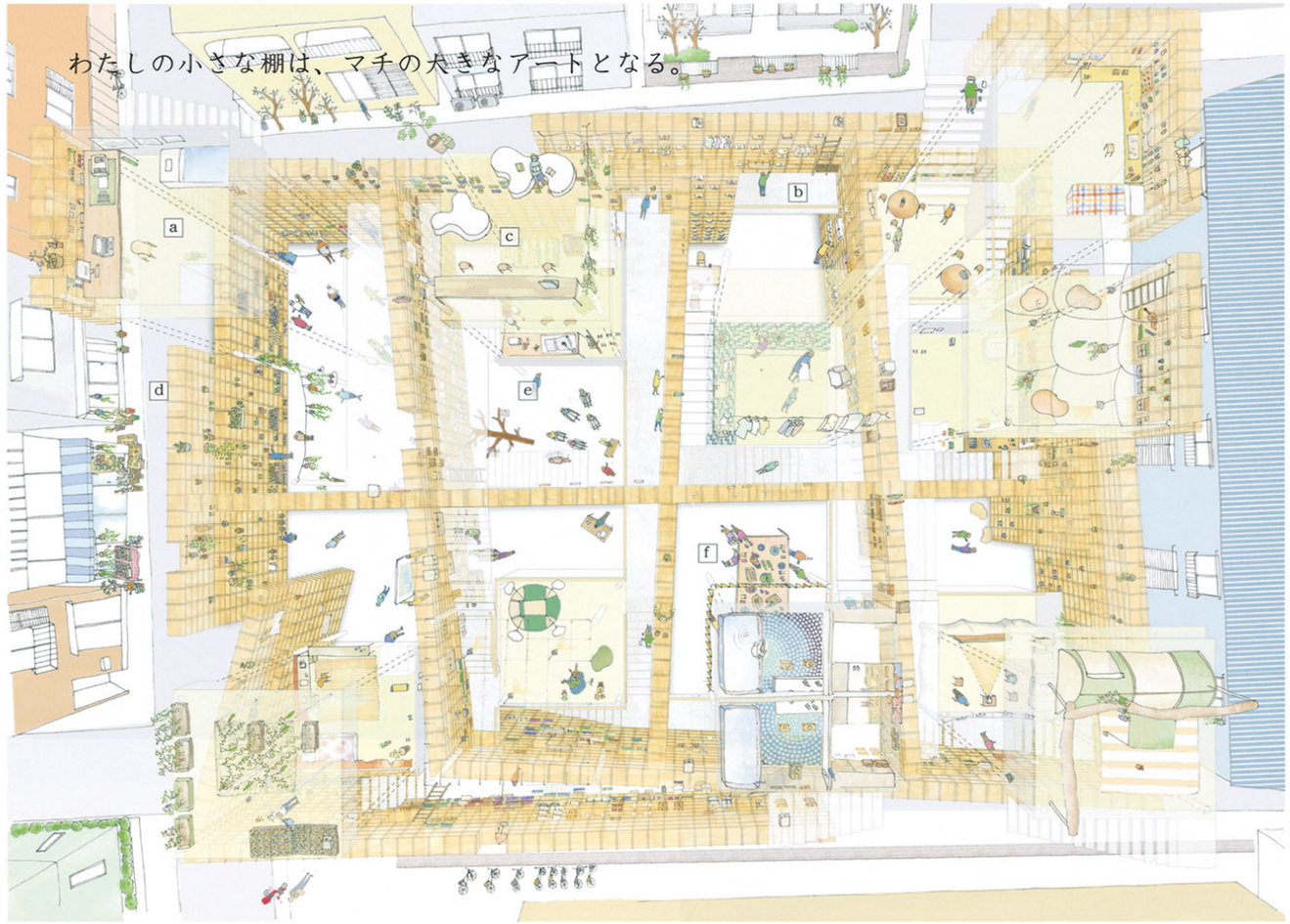
b . お気に入りの場所 - 借り手



階段を下り、お気に入りの場所へいくと、洋服が飾られていた。
洋服をつくったお隣さんとお喋りをし、かわいい刺繍の入ったを服を購入した。

c . 建築家さんがデザインした場所 - 貸し手

僕のデザインした場所にオーナーさんとお向かいさんが本を読んで
くつろいでいた。今日の夜みんなでパーティをする約束をした。



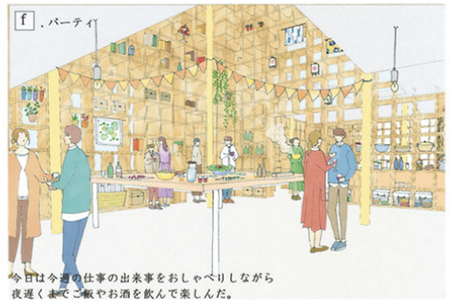
d . 帰り道際にみた住宅

パーティの買い出しついでに池袋へ寄り道して帰ってみた。
家へ戻るとマチの個性や僕の部屋の個性が集まり大きなアートのように見えた

e . 街とつながる場所

家へ入ると商店街の人々がお花や野菜を売り出しており、まだ盛り上がっていた。
その奥では、近くの小学生を招いて上の階のａさんがお絵かき教室をひらいていた
たらしくかわいい絵があちらこちらに飾られている。

f . パーティ



今日は今週の仕事の出来事をおしゃべりしながら
夜遅くまでご飯やお酒を飲んで楽しんだ。

とある建築家さんの休日

性別：男性
職業：建築家
趣味：本集め・植物

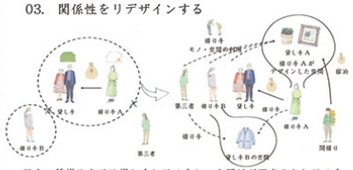
01. 豊島区に分散されている個性

豊島区の各地域には幅広い個性を持った文化が存在しているが、
それぞれの個性は豊島区全体に分散しており、多様な文化へ触れる
機会を失っている。また文化同士の交流も希薄化しており、それに
より新たな文化の誕生や発信が停滞してる。そこで分散している個
性同士を繋ぎ、街へと文化を発信する太っ腹な建築を提案する。

02. 既存の賃貸住宅と過去と豊島区を絵どる賃貸住宅

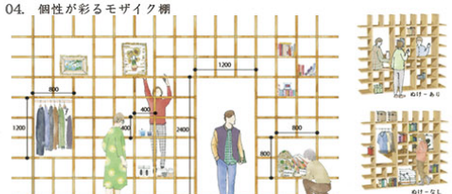
今の賃貸住宅は住む行為に対し強くなり、住民間の関わりや地域との繋がりが薄れ、住まう
人が孤立している。過去に豊島区ではたくさんのアトリエ村が点在しており、人々が集住していた。
アトリエ村は集中して作品を製作できる環境が整えられており、また他文化との交流、自身の
作品を発信できる場が作られていた。しかし現在アトリエ村は消失し、他文化と交流、自身の
作品を発信する場も失われている。そこでさくらが丘バルテノン路地で長崎商和会通りに面し
た 500 ㎡の一区画を敷地とし多文化との交流や自身の作品を発信できる賃貸建築を提案する。

03. 関係性をリデザインする



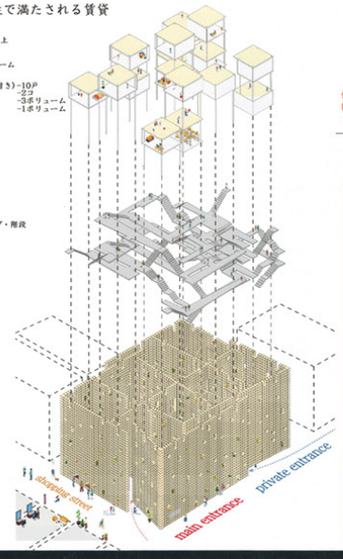
既存の賃貸住宅では貸し手と借り手という関係が固定化され借り手
は「住む」行為のために住宅を借りている。そこで貸し手と借り手と
いう固定化されている構図が常に入れ替わる賃貸建築を提案する。貸
し手であるオーナーは借り手である入居者の個性でデザインされた空
間や物を借りることで貸し手でもありながら借り手にもなる。借り手
である入居者は他の入居者に自分の個性で彩った空間を貸したり、ま
たその空間を第三者に開借りさせることで入居者が貸し手となる。

04. 個性が彩るモザイク棚



400mmx400mm、800mmx800mm、800mmx1200mm の棚を入居者の個性をすべて
受け止め空間を彩り、自身を発信するツールとなる。また棚に収納する個性の租密によって
境界が常に移ろい続けるような空間が現象する。

05. 個性で満たされる賃貸



個性を収納した小さな棚は常にうつろい
続け大きなモザイクアートとなりマチへ
と広がり発信してゆく
住居人がデザインした空間は自身の空間
だけでなく他の住居人や第三者のリビングとなる
自身の作品を飾ろうとしている人
自身の好きな時好きな場所に
飾ったり取ったりできる
地域に触れる場
開取りのんは自由に好きな場所に
テントをはり出店できる。
お隣さんの本を読む住人
住居から溢れたモノ
家庭菜園を楽しむ住人
ボリューム
住居
ボリューム
住居
ボリューム
住居